

<第1クール>

【使える場の設定について】

ゴールを設定して取り組むことが大切。通信で紹介したり、他の先生にも聞いてもらったりするアウトプットが大切。小規模校での学年間での取り組みの良さを生かしていきたい。

Q. 研修の中での授業動画の研修について、どう活用しているのかを知りたい。

A. UDの視点で考え、使える場を焦点化して部分的に見ている。

校長が撮影した動画を見てから話そう、の研修を行っている。

附属小学校さんではどうか → 公開授業を行った。

動画を撮ってはみたものの45分は大変。切り取りも大変。

【学校目標とのリンクについて】

「わかるできるつかえる」学校重点目標とリンクしていることはとても大切。

やるのがシンプルになる。できるだけシンプルにしたい。

Q. モデルを作ったのは、学習過程に該当するのではないか。あのモデルを、学習過程に持ってきても良かったのかもしれない。あの形だけだと、学習過程を盛り込むのは難しいのだろうか。

A. 取り組みがリンクしやすい良さがある。シンプルだと取り組みが良いと感じている。

授業のモデルについては、単元の中で考えていくと、一時間の中で考えた場合にはそぐわない部分もある。授業モデルについては、持ち帰りで検討させてもらいたい。

<第2クール>

【日々の取組について】

いつもやっていたこはUDだったんだ、の視点の気づきがあった。

Q. UD化を取り入れたことで、一番つまづいたところ、困ったところは。

A. UD化の取り組みは、ほぼ学級経営にかかわる話であったと感じている。

焦点化されたねらい、シンプル化された活動の再確認ができた。メインディッシュを食べさせる授業にしよう、と改めて意識売ることができた。難しかったのは習得と活用。習得はスパイラル化として、長期的・意図的・計画的に取り組む点が難しかった。

Q. いかすのマークは、前の時間の学習を生かす意味でも使えるものか。

A. ぜひ活用を！前に学習したことを使って、今学習していると子どももわかるとよい

<第3クール>

【研究の在り方について】

先生たちが元気になる研究と感じた。「ワイガヤ」を使えるのが素敵。

Q. 研究は「やらされ」「おまかせ」が多いと感じるが、そろえるものを示すのは、どう共通理解を図ってきたのか。ワイガヤ導入は、研究部から発信のものか。

A. 「七小ハンドブック」に、ある程度の既定路線が掲載されており、授業のことも掲載してある。

足並みをそろえるのに役立っている。質問があったらほかの先生が答えてくれる。ワイガヤ導入は、研究部から提案して、全体で取り組んだ。チーム化していく、組織として人材の位置づけに役立っているのではないか。

【授業のUD化について】

Q. 授業を構造化することについて、時間の構造化や導入展開の時間配分などはどうするのか。

A. 時間の構造化については、「参加する」の段階として活用している。授業時間の迷子を防いだり、見通しを持たせたりする目的で活用してはいるが、全部の学級ではしていない。

【学校の重点教育目標について】

Q. 重点目標と同じ、というのは、研究部からの提案なのか。

A. 主幹教諭、校長、教頭との打ち合わせの場での確認や、本校の取組でのNPJ会議などで話し合っただけで決定されている。